

News Letter

晩秋の大山（南部町）

2022年

1月

中国四国農政局
鳥取県拠点

地元根付くワイナリーとして ～株式会社 兎ッ兎～

「私は思い切りが良すぎると師匠にも言われるんです。」と語られたのは、平成28年度に「6次産業化総合事業計画」の認定を受け、「とっとり・やず果実酒特区」内の鳥取市国府町で、醸造用ぶどう及び生食用ぶどうを栽培し、ワイン醸造に取り組む「株式会社 兎ッ兎」の代表取締役 前岡美華子さんです。

冒頭の発言を裏付けるように、醸造用ぶどう栽培を始めた頃、一部の圃場で、果樹では難しい無農薬栽培に挑戦。1年目は無事ぶどうが収穫できましたが、2年目には一度罹患すると翌年度以降も、高確率で発生する病気である「黒とう病」が見つかり、兎ッ兎ワイナリーの醸造長に「いきなり無農薬栽培に挑戦するのはやめてくれ。」と言われてしまったそうです。

それでも、平成19年から営農を続け、今ではぶどうの栽培面積も1.6ha（醸造用1.5ha、生食用0.1ha）となり、令和3年はワインを4,200ℓ仕込むことが出来たそうです。



収穫されたぶどうから今年の新酒が出来ました
（「兎ッ兎ワイナリー」Instagramより掲載）



若手社員に囲まれる代表取締役の前岡氏
（現在建設中の貯蔵倉庫の前で（写真中央））

また、地域からの信頼も得られ、隣接する農地を農地中間管理機構を通じて預けてもらえるようになりました。預かった農地は国の補助金を活用し、令和4年度内での作付けを計画されているそうです。

前岡氏は「令和3年産の醸造用ぶどうの収穫量は、4月の遅霜と8月の降雨等で減収となりましたが、元々7割程度の収量でワイン生産を計画していたため、被害を小さく収めることが出来ました。令和3年のような天候不順に備えて作付面積の拡大を計画しています。栽培品種は気候変動の影響を受けにくく、鳥取のテロワールを存分に表現できる品種の選定に次世代を担う若手社員を中心に着手しているところです。」

他にも農家レストラン及び農家民泊にも興味がありますので、着実な成長を図りながら、時機を捉えた際には思い切りよく挑戦しようと考えています。」と今後の目標を語られました。

（「兎ッ兎ワイナリー」ホームページ

<https://www.tottowinery.com/>）

「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」実現に向けて ～中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝選定～」

地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選ぶ「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」に、鳥取県内から2地区が、また今後の活躍が期待できる取組事例を選ぶ「奨励賞」に2地区が、選定されました。

選定証授与式

●大山こむぎプロジェクト（米子市）

鳥取県内で長らく途絶えていた小麦生産を復活。「大山こむぎ」としてパン屋さんや飲食店、給食用に提供している。生産者の顔が見える商品展開を行い、小麦生産量の増加に取り組む。地元産小麦を通して、食育や持続可能な農業を目指している。



奨励賞授与式

●特定非営利活動法人

里山地域研究会（三朝町）

野外で遊ぶことや学ぶ機会の減っている小学生を対象に毎月1回の野外活動や、植樹、草刈り体験を実施。竹林の整備を行い、竹でカップや皿を作成して竹飯作りを行うことや、県道沿いにモミジを植栽するなど、地域の景観形成等を実施。



●ふなおか共生の里づくり推進協議会（八頭町）

地域の将来像（共生の里）の共有とその実現に向け、地域の保育園や小学校との農作業体験や、移住者とともに地域保全活動に取り組むなど、人と自然と郷土と共に生きる里づくりを行っている。



●鳥取県立倉吉農業高等学校

野菜クラブ（倉吉市）

「TOTTORIパパイア普及作戦」と銘打って、鳥取県における青パパイアの栽培技術や利用方法の研究に取り組み、農家への普及と特産品化を目指している。



編集：中国四国農政局 鳥取県拠点

〒680-0845 鳥取市富安2丁目89番地4 鳥取第1地方合同庁舎

TEL (0857)22-3131(代) FAX(0857)27-9672 <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>